

## 職業への距離認知に関する計量分析 (2)

—— 距離認知に対する共同性の影響 ——

摂南大学 山本圭三

### 1. 目的

本研究は、職業に対する「主観的な社会的距離の認知」に影響を与える要因について検討するものである。職業間の距離を問題とする研究では、距離を示す指標として主観的な「選好」を用いることも少なくなかった（池田 1973; 岡本・原 1973 等）。これに対し本研究では、本人の「社会的距離の認知」を主観的な選好よりも基礎的な意識としてとらえ、主観的な選好との関係を確認しつつ、そうした認知を規定する要因を検討する。

第 1 報告では、認知の構造と本人現職との関連が確認される。本報告ではそれをふまえ、特に (1) パーソナルネットワーク、(2) 協働機会などについての効果を中心に検討する。(1) については、これまでの研究の中で社会的距離をあらわす指標として客観的な交際関係を用いられていた (Laumann 1966; Laumann & Guttman 1966)。これに対し本研究では「主観的な距離の認知」を指標とするため、主観的な認知と客観的な交際関係（パーソナルネットワーク）がどのような関係にあるかは検討しておかなければならないといえる。

ただし現実の仕事の場面では、自分自身の仕事のなかで異業種の者と一緒に仕事をする機会も少なくない。パーソナルネットワークだけでなく、こうした人びととの関わりが本人の主観的な距離の認知に影響を与えることは十分に考えられる。それゆえ本報告の中では、(2) についての検討もおこなうものとする。

### 2. 方法

データは、2013 年に 20~59 歳を対象として実施された Web 調査：「職業イメージに関する調査」により得られたものを用いる（データの詳細に関しては、第 1 報告を参照のこと）。分析で中心的に扱うのは、36 職業それぞれに対して「近い／遠い」と感じる程度に関する質問で、これらの評定値を単位としたクラスタ分析をおこない、クラスタに対する回答者による距離スコア（加算得点）を従属変数として用いる。独立変数として主に用いるのは 11 の従業上の地位・職種それぞれについて本人が就いたことがあるかどうか（在職経験）、パーソナルネットワークにいるかどうか（NTW）、一緒に仕事をする機会の程度（協働機会）、および父職業についての回答である。

### 3. 結果

クラスタ分析により、第 1 報告で示された次元空間上の職業の分化状態に対応する 9 つのクラスタがえられた。9 クラスタそれぞれに対する距離認知（近さ）スコアの加算尺度を従属変数においた重回帰分析をおこなったところ、父職業の影響は小さいこと、NTW はそのほとんどが正の効果を示すことが明らかになった。また、協働経験は正の効果だけでなく負の効果も示していること、その効果の正負の違いは次元空間上の職業の分化をあらわす極（階層的地位分離、性別職域分離、官僚制組織—裁量労働分離）に沿ってあらわれていること、なども確認された。

分析の詳細、および NTW と協働経験の効果の違いに関するインプリケーションについては報告当日に説明する。